

平成 26 年度  
事業報告書

社会福祉法人 千鳥会

## 目 次

法人本部	4～8
特別養護老人ホーム 千鳥会ゴールド	9
津名デイサービスセンター	9～10
千鳥会居宅介護支援事業	10
千鳥会在宅介護支援センター	10～11
家族介護教室・家族介護者交流事業	11
地域支援事業 (ふれあいの集い ちどり・高齢者住宅等安心確保事業・兵庫L S A・配食サービス)	11～12
グループホーム しおさい	13
しおさいデイサービスセンター	13
特別養護老人ホーム ゆうらぎ	14
ゆうらぎデイサービスセンター	14～15
ゆうらぎ居宅介護支援事業所	15～16
ゆうらぎ訪問介護ステーション	16
養護老人ホーム 北淡荘	16～17
小規模多機能型居宅介護事業所 ぬくもり	17
佐野デイサービスセンター	18
地域密着型特別養護老人ホームほほえみ	18～19
千鳥会デイサービスセンターほほえみ	19～20
小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ	20～21
ほほえみ居宅介護支援事業所	21～22
ちびっこランド ちどり	23

2014(平成 26)年度 事業報告書 社会福祉法人 千鳥会

1. 評議員会・理事会報告

	開催日	開催場所	出席者数/定数	議 題	欠席者氏名	監事出席の有無 出席者氏名
評議員会	2014年5月26日	千鳥会 法人本部	17/19	① 平成25年度 社会福祉法人 千鳥会 補正予算(案)の件 ② 平成25年度 社会福祉法人 千鳥会 事業報告(案)の件 ③ 平成25年度 社会福祉法人 千鳥会 決算報告(案)の件 ④ 平成25年度 社会福祉法人 千鳥会 監事監査報告の件 ⑤ 諸規定変更の件 ⑥ 役員構成の件 ⑦ その他	船越洋子 向原孝志	竹上憲二 宮尾慶子
理事会			8/9		福田信一	竹上憲二 宮尾慶子
評議員会	2014年8月25日	千鳥会 ゴールド	18/19	① 役員構成の件 ② 経済産業省補助金申請の件 ③ 自主事業の件 ④ その他	向原孝志	竹上憲二 宮尾慶子
理事会			9/9		なし	竹上憲二 宮尾慶子
評議員会	2014年12月22日	千鳥会 法人本部	18/19	① 役員構成の件 ② 施設整備等助成金の交付決定の件 ③ 千鳥会ゴールド 改修工事・エアコン取換工事の件 ④ 千鳥会ゴールド ボイラー補助金申請の件 ⑤ ゆうらぎ・北淡荘 浄化槽液中膜取り換えの件 ⑥ 社会福祉法人 千鳥会 第一回補正予算案の件 ⑦ 就業規則等変更の件 ⑧ 平成27年度 施設整備計画の件 ⑨ その他	望月修身	竹上憲二 宮尾慶子
理事会			8/9		福田信一	竹上憲二 宮尾慶子
評議員会	2015年3月23日	千鳥会 法人本部	19/19	① 社会福祉法人 千鳥会 第二回補正予算(案)の件 ② 社会福祉法人 千鳥会 千鳥会事業計画(案)の件 ③ 社会福祉法人 千鳥会 新年度予算(案)の件 ④ 定款変更の件 ⑤ その他	なし	竹上憲二 宮尾慶子
理事会			8/9		福田信一	竹上憲二 宮尾慶子

## 2. スキルアップ研修

研修対象職種	講師名	研修内容	実施日	参加人数
全職員	社会福祉法人 円融会 研修センター 教務主任 吉田 尚子	1. 利用者が求める介護職員像 2. 実践できる介護現場での接遇 3. 利用者への心無い言葉をなくすには 4. 挨拶・表情・身だしなみ	2014年7月4日(金)	29名
			2014年8月7日(木)	42名
			2014年9月24日(水)	33名
			2014年10月28日(火)	32名
			2014年11月21日(金)	34名
			2014年12月17日(水)	26名
			2015年1月14日(水)	32名

## 3. 職員福利厚生

実施内容	実施日	実施種目/実施場所		参加人数
職員福利厚生事業	2014年7月21日(月)	バレーボール	神戸ワールド記念ホール	10名
	2014年8月8日(金)	BBQ	ゆうらぎ・北淡荘(雨天中止)	
	2015年2月6日(金)	ボーリング	旭洋(南あわじ市)	46名
職員親睦会	2014年5月16日(金)	「ウェスティンホテル淡路」		180名
新年会(ゴールド)	2015年1月23日(金)	「アテーナ」		50名
新年会(ゆうらぎ・北淡荘)	2015年1月30日(金)	「さくま」		79名
新年会(ほほえみ)	2015年1月16日(金)	「白鶴亭」		39名
新年会(しおさい)	2015年2月4日(木)	「春夏秋冬」		17名
新年会(ぬくもり)	2015年2月4日(水)	「ありい亭」		8名
新年会(佐野)	2015年1月17日(木)	「味心 晶」		8名
職員健康診断 (前期・後期)	2014年5~6月	ゴールド・しおさい・ぬくもり・佐野デイ		89名
	2014年5~10月	ゆうらぎ・北淡荘		39名
	2014年7月	ほほえみ		47名
	2014年11月	ゴールド・しおさい・ぬくもり・佐野デイ		35名
	2014年10~11月	ゆうらぎ・北淡荘		105名
	2015年2月	ほほえみ		23名
職員腰痛検査 (前期・後期)	2014年8~10月	ゴールド・しおさい・ぬくもり・佐野デイ		75名
	2014年7~8月	ゆうらぎ・北淡荘		82名
	2014年9月	ほほえみ		43名
	2015年2~3月	ゴールド・しおさい・ぬくもり・佐野デイ		81名
	2014年1~2月	ゆうらぎ・北淡荘		79名
	2015年3月	ほほえみ		42名
インフルエンザ 予防接種	2014年11月	ゴールド・しおさい・ぬくもり・佐野デイ・ほほえみ		146名
	2014年10~11月	ゆうらぎ・北淡荘		101名
職員面談	5~6月、10~11月	全事業所		全職員

#### 4. 入社式

入 社 式	新 入 職 員 数
2014年4月1日(火)	7名(3月入職者5名、4月入職者2名)
2014年6月2日(月)	12名
2014年8月1日(金)	4名
2014年10月1日(水)	7名
2014年12月2日(火)	4名
2015年2月2日(月)	6名
2015年3月18日(水)	2名(新卒者)
合 計	42名(平成26年度入職者37名)

#### 5. 職員奨励金・助成金

	事 由	内 容	件 数
自己啓発支援	報奨金	介護支援専門員	5件
自己啓発支援	報奨金	介護福祉士	11件
自己啓発支援	報奨金	住環境コーディネーター2級	1件

#### 6. 地域貢献事業

##### 地域交流事業

年 月 日	事 業 名	参 加 者 及 び 内 容
各月1回	手芸教室	地域の方7~8名、北淡荘2~3名
各月1回	絵手紙教室	地域の方8~12名、北淡荘2~3名、デイ2~3名
各月1回	ミニ花教室	地域の方7~8名、北淡荘15名、デイ14~16名、ゆうらぎ10名
2014年5月13日	ふれあい交流 ミニ花教室	室津小学校1・2年生10名、北淡荘20名
2014年11月1~3日	北淡文化祭 出展	手芸・絵手紙・書道教室の作品展示
2014年11月7~14日	心をつなぐ絵手紙展	淡路文化会館へ絵手紙教室の作品展示
2015年3月4~11日	久野々かかし祭	羊のかかし、デイよりパネル展示
2015年3月11日	ふれあい交流 万華鏡作り	室津小学校2・3・4年生19名、北淡荘22名

バジーズギャラリー作品展示

期 間	作 品 名	出 展 者
4月	日本画セミナー受講生作品展	淡路文化会館 日本画セミナー受講生
5月	洋画セミナー受講生作品展	淡路文化会館 洋画セミナー受講生
6月	北淡あゆみ 書道展	北淡あゆみ書道
7月	東原るび 写真展	東原るび
8月	中井 昇 絵画展	中井 昇
9月	ゆうらぎ・北淡荘 書道教室作品展 絵手紙 100 日マラソン 佐名喜千恵子	ゆうらぎ・北淡荘 ご利用者 佐名喜千恵子
10月	手漉き和紙店	奥田好治
11月	北淡あゆみ書道展	北淡あゆみ書道
12月	マイライブラリー キルト展	橋立久代
1月	小学生 書き初め展	育波小学校、室津小学校
2月	久留麻敏仁 写真展	久留麻敏仁
3月	北淡あゆみ書道展	北淡あゆみ書道

ほほえみギャラリー作品展示

期 間	作 品 名	出 展 者
4月	浜野好展 写真展	浜野好展
5月	中井 昇 絵画展	中井 昇
6月	白石紘三 写真展	白石紘三
7月	岩屋フォト写真展	岩屋フォトクラブ
8月	絵手紙 100 日マラソン	佐名喜千恵子
9月	ちでまるイラスト展	三原敏秀
10月	東浦フォト写真展	東浦フォトクラブ
11月	北淡荘・ゆうらぎ 書道教室作品展	北淡荘・ゆうらぎ ご利用者
12月	マイラブラリーキルト展	橋立久代
1月	マイラブラリーキルト展	橋立久代
2月	白石紘三 写真展	白石紘三
3月	白石紘三 写真展	白石紘三

## 7.情報公表サービス受審・第三者評価受審

### ■ 第三者評価

ほほえみ デイほほえみ	2014年2月13～14日
しおさい しおさいデイ	2014年4月23日
ぬくもり	2014年9月17日
小規模ほほえみ	2015年1月23日

### ■ ISOサーベイランス

2015年1月7日～8日

### ■ 指導監査

ほほえみ（長期）	2014年5月27日
ほほえみ（短期） 小規模ほほえみ	2014年10月23日
ぬくもり	2014年10月29日
ゆうらぎデイ ゆうらぎ訪問 北淡荘	2014年11月25日

## 8.総括

介護保険制度が始まって15年を迎えています。この間、制度の内容等はいろいろな面で見直しが行われ、スタート時とは大きく変わっています。

しかし、介護を必要とする高齢者を支える介護職員の重要性は何ら変わることなく、ますますその重要性が高まっています。厚生労働省の推計によれば、2025年には約250万人の介護職員が必要との見通しが示されている。介護職員の確保、質の向上等の問題は、高齢者の介護を支えるうえで重要な課題となっています。

又、27年度の介護保険制度の改正では、予防給付の訪問介護と通所介護が市町村を実施主体とする新しい地域支援事業に移行されることとなります。高齢化への備えとして各地域で地域包括ケアの体制を構築するには、医療・介護の連携のほか、外出時の付き添いや買い物など高齢者の暮らしを支えるサービスを提供できる地域における支え合いの体制づくりが必要となってきます。

社会福祉法人は地域の福祉ニーズを最もよく把握しており、入所に至らない軽度の方や地域の高齢者の暮らしを支えることに対しても力を発揮していくことが求められています。とはいえ、重度の入所者をしっかりと支えるという本来の業務に支障をきたさないことが前提です。今回の改正で、特別養護老人ホームの入所要件が原則として要介護3以上となり、とてもニーズの高い施設になっていますが、特養をはじめとする施設にも地域でもその役割を果たしていかななくてはなりません。

## 特別養護老人ホーム 千鳥会ゴールド

<p><b>平成 26 年度 事業所総括</b></p> <p>○勉強会・職員のスキル向上・人材育成          特養勉強会の定着と外部講師などの導入により、専門性の高い研修が実施でき職員の資質の向上を図ることができました。具体的には外部講師に来ていただき、口腔ケアやポジショニング、嚥下機能などの講義を受け、実際の業務に生かしています。</p> <p>○感染対策          感染症についてはノロウイルスの感染は利用者 0 名、インフルエンザの発症はショートステイの利用者で 2 名感染。職員、職員家族に胃腸炎やインフルエンザの発症はありましたが、施設内に持ち込みすることはなく、施設内での感染は発生しませんでした。また感染対策の強化として、出勤時に職員が体温測定し、発熱時は病院受診し、業務に従事してもらうなどの対応を行った結果、感染を拡大することがありませんでした。</p> <p>○運営面          年間を通して、61 床のベッドに対しての稼働率 98.36%維持することができました。60 床ベースではほぼ 100%維持できました。利用者の重度化が進んでいる中、昨年に比べ退所者・入院者が減少し、年明けからは長期入所者の入院延べ人数が 10 名未満/月と利用者の状態が安定していたのが要因の 1 つに挙げられます。空きベッドも上手く利用することができました。また、今年度は 5 名の方を施設で看取りました。ご家族より感謝の言葉を頂き、今後も利用者・家族のニーズに応えられる施設づくりを行っていきます。</p>
<p><b>平成 27 年度への課題及び展望</b></p> <p>長期入所者の平均介護度は 3.74 (H27.3.31 現在) と入所者の重度化が進んでいます。平成 27 年の介護保険制度改正により入所要件が原則要介護度 3 以上となり、今後ますます入退所、入院者延べ人数が増加すると思われ、入所者の重度化に合わせたハード面とソフト面の対応が不可欠になります。26 度よりスキルツリー第 2 弾を開催していますが、27 年度引き続き継続し、利用者のアセスメント力、職員に伝える力、2 次障害を作らない介護技術の向上を図っていきます。利用者の重度化、重度の方(身体的・認知)にも対応できるチーム作りを行います。</p> <p>今年度は同職種間や他職種間での情報共有不足によるアクシデントが数件あり、服薬関係のアクシデントも起こり、職員間の連携を更に深めアクシデントの軽減に努めます。</p>

## 津名デイサービスセンター

<p><b>平成 26 年度 事業所総括</b></p> <p>平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月まで、利用者から選ばれるよりよいサービスを提供するため、介護知識・技術と接遇の向上、レクリエーションの充実を、下記のように取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職場環境を整え、教育・研修を推進し、全職員で資格取得に向けて学習</li> <li>○ レクリエーション委員会を設置し、ニーズに応じたメニューの開発</li> <li>○ 開業医及び居宅介護事業所を訪問</li> <li>○ 専門職による個別機能訓練・運動器機能向上の実施</li> <li>○ 欠席者へのフォローアップ</li> <li>○ 外食レクリエーション・買い物レクリエーションの充実</li> <li>○ 本年度稼働率 91.60%、延べ利用者数 11837 人となり、新規利用者 28 名、昨年より利用者増加の為、12 月より定員 45 名に変更。今後も機能訓練の充実を図り、サービス内容の見直し、専門職の連携強化などを行っていききたいと思います。</li> </ul>
<p><b>平成 27 年度への課題及び展望</b></p> <p>安定した稼働率実施のため、サービスのマンネリ化を防ぎ、多様化する利用者の個別ニーズに柔軟に対応できるようサービス内容の継続的改善に努め、コンプライアンスに基づいた客観的、社会的、科学的なケアを目指しながら、津名デイサービスの特色と独自性を持った事業を展開し、体質を強化します。</p>

職員のスキルアップを図り、更なるサービス内容の向上を目指します。  
又、老朽化したハード面の見直しを行い、利用者がより快適に過ごしていただけるよう施設設備の改善にも努めます。

## 千鳥会居宅介護支援事業所（千鳥会在宅介護支援センター）

### 平成 26 年度 事業所総括

居宅介護支援事業所ではご利用者の「生活の質」の維持・向上を目指した介護サービスを提供するため、以下の手順をふまえ、ご利用者自身がサービスを選択できるように専門職が連携し、ご利用者及びそのご家族を支援できるように努めました。

- ① サービス担当者がご利用者側の立場に立って、ご本人やご家族の希望を的確に把握する。
- ② その結果を踏まえ、サービス担当者会議を積極的に開催し関係者が一体となった介護サービス計画を策定し、実施していく。
- ③ 要介護者の希望を尊重し、その人らしい自立した生活が送れるよう社会的に支援を行う。

平成 26 年度は、入院となり中止になるケースも多くある反面、新しいご利用者が千鳥会を選んで頂くケースも多く、要介護者のケアプラン数が前年比+126 件増となりました。

住み慣れた地域でいつまでも生活できる様に支援しておりますが、高齢者夫婦、一人暮らし、認知症の方の困難なケースに加え、特定疾患による 65 歳以下のご利用者も増えてきており、ご夫婦、親子で支援させて頂いているケースもあります。

「広域支援員・専門職派遣事業」も引き続き作業療法士、地域包括支援センターの保健師をはじめ関係職員が連携を図りながら、認知症になっても住み慣れた地域で生活を続けられるよう、本人のできる事は何かを把握しながら支援を進めてきました。これからますます増えてくる認知症高齢者に対して今後も上記の事業を率先して進めていく事が必要になってくると思います。更に 26 年度は地域ケア会議にて積極的に事例を報告し、その方の課題のみならず、地域の課題にまで展開できるように図ってきました。

27 年度も部署内での伝達会議を実施し職員の連携を図るとともに、施設内外の研修にも積極的に出席をし、どのような困難事例にでも対応ができるように各ケアマネのスキルアップを目指していきます。

### 平成 27 年度への課題及び展望

今後も増えてくると予想される認知症の方ばかりでなく、障害を持った高齢者、特定疾患の比較的若いご利用者等の在宅支援を積極的に取り組み、専門医他関係者との連携を図ることでケアマネが認知症や様々な障害、特定疾患を理解することで一層寄り添った支援ができると思います。

法令を遵守し、自己研鑽に励み、介護支援専門員としての専門知識を身につけ、地域の方から選んでいただける居宅介護支援事業所を目指すとともに、高齢になっても地域との関わりを継続し、住み慣れた自宅で自立した暮らしが継続できる事を目指し支援していきます。

## 千鳥会在宅介護支援センター

### 平成 26 年度 事業所総括

高齢者とそのご家族及び地域住民の介護・生活支援・介護予防等に係る各種の相談・調整活動を通じ、高齢者の自立ならびに生活の質の向上を図ることを目的としています。

淡路市内に生活する高齢者が、要支援・要介護状態にならないよう予防を行い、住み慣れた地域で快適に安心して暮らせるよう、行政機関やサービス提供事業所と連携を図り、各種の地域支援サービスが利用できるように活動をしています。

平成 26 年度は前年度に引き続き、在介が中心となり、一人暮らし高齢者を中心とした訪問を積極的に行いながら、緊急性の高い場合には地域包括支援センターの職員と同行訪問を行うことで、情報の共有を行うとともに、サービスにつなげられるよう支援を行ってきました。

しかし、介護保険を申請しても本人、家族の理解不足などでサービス利用につながらないケースや、介護保険内のサービスでは支援できないケースも多くあり、地域や住民への支援協力依頼や淡路市独自のサービスや当法人による自主事業に繋げ、在宅での生活が継続できるよう支援していきたいです。

その他の取組みとして、津名地域、北淡地域のケア会議や「包括・在介連絡会」「包括・千鳥在介情報共有会」及び各地域の民生委員児童委員協議会に毎回出席をすることにより行政や他の事業所との情報の共有を行って参りました。

「認知症をささえる家族のつどい ひまわりの会」に毎月参加し、家族の声を傾聴することで、参加者の思いを共有することもできました。また、つどいの後に開催されるカンファレンスにて会の振り返りと今後の方向性について話し合いを行ってきました。

介護予防事業の一環として、いきいき 100 歳体操への参加を積極的に勧め、初回参加者に対しては会場まで同行することでご利用者の不安軽減と、次回につなげられるよう配慮を行いました。近くに会場がない場合は、民生委員や町内会と連携し新たな地域展開を行いました。

認知症サポーター養成講座を地域や金融機関、老人大学等で行い地域での認知症への理解、地域力の向上にも取り組みました。淡路市社会福祉協議会主催の「福祉まつり」にも参加し、地域に当センターの広報活動を行いました。

#### 平成 27 年度への課題及び展望

平成 27 年度も積極的に一人暮らしの方々を訪問または再訪問を行うことで、継続的に見守りを行い、孤独死、孤立死の予防と、高齢者虐待などを早期発見し必要な対応ができるよう、行政や他の事業所との連携、連絡を密に取り合っていくとともに、埋もれがちな住民の困りごとを地域で拾い上げ、必要な支援に繋げるしくみ作りを行うことを目指し、より地域に密着し誰もが住みやすい地域になるよう支援していきます。

## 家族介護教室・家族介護交流事業

#### 平成 26 年度 事業所総括

家族介護教室・家族介護交流事業は、在宅で高齢者の介護をしているご家族の方を対象に介護の知識や技術、介護者自身の健康管理、介護者同士の交流の場づくりなど介護の負担軽減に役立てていただけるよう配慮し、定期的に開催しました。

施設見学の機会を設ける事で、施設での生活をイメージしていただくことができました。

介護の知識に限らず、介護者であるご家族の心身のリフレッシュを目的とした活動内容も取り入れました。

日々の介護から解放され、参加者同士悩みを共有することで前向きになり、参加を楽しみにしているという声も聞かれました。

#### 平成 27 年度への課題及び展望

今後も介護されているご家族にとって、安らぎの場となるような活動に努めて行きたいと思っております。

## 地域支援事業

#### 平成 26 年度 事業所総括

##### ○全体総括

地域で自立した日常生活を送ることを目的とし、地域支援事業が実施され独自のサービスを提供しました。

「配食サービス」は平成 26 年 9 月より開始、「ふれあいの集い・ちどり」は平成 26 年 4 月より開始しました。

「配食サービス」は、手から手への配達を行うことにより安否確認が行え、コミュニケーションを図る事もできています。今後、ご利用者が増えて行くサービスであり必要なサービスと思われれます。

「ふれあいの集い・ちどり」は介護保険を申請し通所介護を利用するご利用者が増えたため減少方向となっています。  
「兵庫 LSA24」は包括支援センター、居宅支援事業所からの紹介も多く利用ケースが増えてきています。  
「高齢者住宅等安心確保事業」は支援員との信頼関係も深く構築でき安心した生活を送られています。

平成 27 年度も地域支援事業は、介護サービスや介護予防サービスと並び介護保険制度の 3 つの柱の一つとして考えて行きます。

#### ○ふれあいの集い ちどり

独自のサービスとして、5 月から生きがいデイサービスを利用していたご利用者から今後も定期的に地域の方と親交を持てる場が欲しいと希望され開始しました。

ご利用者が主体となり、プログラムを決めていただき、そのプログラムが実現できるようにサポートしてきました。

外出では、食事・買物・季節の花の鑑賞・観劇・初詣と楽しんでいただきました。  
料理レクでは、たこ焼き・巻きずし・いなりずしとご利用者は腕を振るわれました。  
アクティビティとして、カラオケ・手芸・脳トレーニング等を楽しんでいただきました。

#### ○高齢者住宅等安心確保事業

安否確認、生活指導相談の件数は 10,118 件。前年度比+428 件。

緊急出動 8 件、関係機関との連携 94 件。

平成 24 年度より故障・不具合が続いていた「県営中田住宅」で、年明けに緊急通報システムが総入れ替えすることが決定。

「市営津名北欧村」「市営田井団地」では県営中田住宅ほどの誤作動は無く、全体的に長年の誤作動による高齢者住民の精神的苦痛はほぼ解消される見込みである。

しかし、緊急通報システムの機能が複雑になってきたことで、理解できず使用過程で住民が誤作動の原因になる可能性は増えると思われる。

今後も高齢化に伴う課題は解消されず関連機関との連携、生活支援はこれからも必要である。

特に独居で身寄りのない方の緊急対応、救急搬送での付添い者の確保は急務であると考えます。

安否確認、生活指導相談の件数は 10,118 件。前年度比+428 件。

緊急通報による出動は前年度比-5 件、救急搬送されたケース 0 件。

内訳として、「誤って鳴らしてしまった」「水の止め忘れ」「鍵のかけ忘れ」

住人の高齢化も進んでおり、安否確認は必ず必要であると決定し、訪問は申請制から対象住宅の訪問が義務つけられる。年齢層は幅広く、就労中の方は安否確認が困難との問題もあるが、工夫し、確認の継続を図りたい。

#### ○兵庫 L S A

利用者が住み慣れた地域で安心して自分らしく過ごして頂くため、定期的に見守り活動を実施。

相談援助も行い、必要に応じ包括支援センター、担当ケアマネジャー、在宅支援センターと連携を図っている。

また、地域住民・民生委員に事業内容をより深く理解していただくため、広報活動を行っている。

### 平成 27 年度への課題及び展望

#### ○ふれあいの集い ちどり

住み慣れた地域での生活が今後も継続できるよう、自立支援、QOL の向上に取り組んでいきたい。

また、関係機関との連携を強化し、情報共有に務め、地域での暮らしを支えられる事業となるようにしていきたい。

#### ○高齢者住宅等安心確保事業

平成 27 年度も問題解決の成功事例の更なる積み上げ、対応の円滑化に取り組み、また地域、関連機関との連携をさらに強化し、高齢者住宅入居者の孤立や生活問題の解決を推進することを目指すとともに、業務効率向上、業務適正化を継続実施したい。

#### ○兵庫 L S A

平成 27 年度も知名度の向上に努め、契約数の確保に努めたい。  
また地域、関連機関との連携をさらに強化し、地域住民の孤立や生活問題の解決を推進することを目指すとともに、業務効率向上、業務適正化を継続実施したい。

○配食サービス

できるだけ住み慣れた地域で自分らしく生活を継続していくためにも、介護保険以外の取り組みが必要である。  
薄れている地域力を活性化していくためにも社会福祉法人として何ができるか、地域が何を必要としているかを模索し、提案していくことが必要である。

## グループホームしおさい

### 平成 26 年度 事業所総括

地域密着型の施設として、ご利用者を地域に暮らす住民としての視点から、ご利用者と地域住民との関わりを 25 年度からより重視してきました。個々の尊厳を重視しパーソナリティーを理解、尊重する事を大切にしています。  
今後も私達の基本の考え方は、ご利用者は「認知症高齢者である人だから、しおさいに入っている人」の立場ではなく、「同じ郡家地区に生活している地域住民（但し、支援を必要とする弱い立場の高齢者）」として接しています。

日常生活では毎月の行事・季節の行事を通してご利用者自ら参加することで楽しみや、生きがいを感じつつ、社会参加に繋がられるようご支援しています。

職員においては教育訓練、法人内の研修により資質向上とスキルアップに努めています。  
防災面では、淡路広域消防の指導の下、(夜間想定) 避難誘導訓練及び心肺蘇生訓練、また自主避難誘導訓練も実施しています。

### 平成 27 年度の課題及び展望

27 年度は運営面に於いて 27 年度介護報酬改定に伴う介護報酬の減収の為、対策として、経費等見直しと削減及び利用料金の共益費アップ（ご家族同意済）と共用型のデイサービスの利用者増を目指して行います。

ご利用者個々が地域の住民として日常生活での楽しみ、生きがいを感じていただけるよう社会参加することを大切に今後も職員間で協働し努めていきます。

防災面では、南海トラフ地震発生時の地震・津波の災害に備え、ご利用者の安全を第一とし、地域の避難場所の周知を図っています。いざと言う時に慌てないため必ず起こるものと日頃から意識し、危機に備えていきます。

## しおさいデイサービスセンター

### 平成 26 年度 事業所総括

平成 26 年度は定員 6 名での利用となりましたが、入院及び他施設への入所で実利用者が 2 名減少し、3 名となりました。

1 月にはインフルエンザ感染予防対策の為、営業日数を 3 日間中止としましたが、幸いご利用者の感染はありませんでした。

年度末の 3 月半ばより新規で 1 名の利用が増え、実利用者は 3 月 31 日現在で 4 名となっています。  
ご利用者がしおさいデイサービスを利用することで楽しみや生きが生まれ、他者との交流、閉じこもり防止、社会参加となり、ご家族にはご自身の時間の確保、介護負担の軽減となるようご支援していきます。

### 平成 27 年度への課題及び展望

27 年度においてはグループホームの共用型サービスとして、家庭的な雰囲気のあるサービスを提供し、ご家族、ケアマネージャー、医療機関との連携を図り、ご利用者が引き続きしおさいデイサービスを安心かつ楽しく利用できるよう、ご利用者主体のサービス提供を続けながら、ご家族への支援にも繋がるように努めていきます。  
ご利用者お一人お一人を尊重し、社会参加と交流を継続することで地域での孤立を防止し、住み慣れた自宅での生活を継続できるよう、職員一同チームケアで支援し、努力していきます。  
運営面においては、現在の実施地域の旧一宮町から淡路市に拡大し、利用者の増加を目指します。

## 特別養護老人ホームゆうらぎ

### 平成 26 年度 事業所総括

ゆうらぎでは、利用者の情報を把握するツールとして 24 時間シートを活用し、個別ケアに取り組んでいます。利用者の状況は日々変化しているため、シートを定期的に見直し、情報を把握する事で、利用者に応じた食事の提供や排泄等全般において個別対応を実現すると共に、行事等の実施しにも活用することができました。

細かな介護技術やポジショニングについては、PTとの連携を図ることで褥瘡者0名を達成することができました。行事については、利用者の趣味・嗜好を把握する事で希望に応じた行事として、釣りの実施・おやつレク・外食・外出等幅広く行うことができたため、喜びの声も大幅に増加し、顧客満足度の向上に結び付けました。

住み慣れた地域への外出として、地域のお祭りや学校行事等へ出向き、昔を思い出して頂く事により、その後の生活に良い影響をもたらしています。

職員の人材育成では、毎月施設長を交えてリーダー面談を継続することで問題点や悩みを把握・共有することで迅速な解決を行うと共に、リーダーと各職員も定期的に面談を行い、働きやすい環境作りに努めたことで、職員間の連携が強化され、26年度の退職者は0名となっております。

今年度は施設全体で一丸となり前進することができた1年でしたが、まだ多くの課題が残っているため、来年度にはその課題克服に向けて取り組んでいきます。

### 平成 27 年度への課題及び展望

・利用者個別の状態・情報を詳しく把握する為に、24 時間シートの活用やその他のツールを最大限に活かしていく。その中で、24 時間シートを見直すなどゆうらぎ独自の有効活用可能な情報シートを作成する。

1. 食に関するケアの継続的な研究と快適な環境作りを行いその人らしさを追求していく。
2. 現在行っている取り組み・行事に関して、利用者の要望に応じた内容への転換。要望に対して他職種協働によりサービスを提供する。
3. 利用者のポジショニング等の知識を深め、褥瘡ケアを継続的に実施し褥瘡者0名を目指し QOL 向上に努める。
4. 喜びの声、クレームなどに至る些細な情報を収集、文書化し、利用者の生活改善に努め、満足度向上に繋げる

- ・配食サービス・地域見守りサービスを、職員間の連携を図り実施する。
- ・リーダー面談を毎月実施し課題の抽出・解決に向けて一体となって取り組む。リーダーは目標に向かって職員と一つになる組織体制を形成していく。
- ・組織体制の中で、ゆうらぎを牽引していく人材の育成に努める。
- ・外部講師を積極的に招き、ニーズに応じた勉強会を提供し知識習得に励む。
- ・介護報酬改定・介護保険法改正の情報を把握し、長期申込者・利用者家族に説明を行い適正な運営に努める。
- ・ショートステイ稼働率 100%以上（空床利用を含む）を目指す。
- ・利用者の状態を把握し、加算取得要件に満たしているものについては家族に了承を得、取得に励む。
- ・仕事内容の見直しを図ることで、少ない人員でも一定の効果が得られる環境作りに励む。

## ゆうらぎデイサービスセンター

### 平成 26 年度 事業所総括

平成 27 年 3 月 31 日をもって 8 年間デイサービスの事業を行ってきました。今年度は、昨年度からの利用者増そのままに、4 月よりたくさんのご利用者にご利用していただくことができ、45 名だった定員を 5 月には 50 名、8 月には 55 名と増員することができました。

要因として、常に新たな事にチャレンジし、サービスの向上に努めてきた結果ではないかと思っています。地域にも定着してきたこともあり、ケアマネージャーからの紹介も多く、65 名の新規の利用者を獲得できました。しかし、増えてきた利用者の中で席の確保が徐々に難しくなっています。

人数が多くなると通路が狭くなり事故の危険性が高まります。

安全で安心して利用して頂ける様に試行錯誤していくことが今後の課題であります。

この1年間で取り組んできたことを下記に記述します。

- 各月ごとに教育訓練を実施。職員の能力向上に努めた。
- 介護技術講習会と銘打ち、家族様にも参加していただける講習会を行った。
- 利用者増加に伴い、新しいレクリエーションの創作と取り組み等、ソフト面を強化することで、利用者から選んでいただけるよう努めた。
- 淡路市の通所系の事業所が集まる会議へ参加し、情報の共有を図った。

この結果として、本年度稼働率は94.5%、延べ利用者数は15,579人となりました。前年度の年間実績から比べ、延べ利用者数はプラス3,166名となっており、1月平均 約264名の増加となっています。

26年5月からは定員を45名から50名に、8月からは55名に変更したことにより、新規利用者も急激に増え、目まぐるしい日々が続きました。その中で職員が一丸となり、利用者にごうごうしていただくかを考え、実行してきた結果であることから職員個々の自信が生まれました。

#### 平成27年度への課題及び展望

平成27年度は下記の目標を設定し、職員一丸となり更なる利用者確保を目指します。

- 増加する利用者に統一したサービスを提供していくため、施設内部・外部への研修の参加・他事業所への見学を行うことで事業所の質向上を図ります。
- 各職種の能力を高める為、資格取得を図ります。
- 事故を未然に防ぐ為、職員間で情報の共有を図ります。
- 利用者の普段口にされることの無い声を吸い上げ、顧客満足に努めます。
- 現在のサービスを満足とするのではなく、新しいレクリエーションへの取り組みを行います。
- より個別性を高め、個々との関わりを密にとっていきます。
- 地域との関わりも今後はより深めていきます。

以上の点について体制強化を行います。

## ゆうらぎ居宅介護支援事業所

#### 平成26年度 事業所総括

事業所開設より8年目となった昨年度、新たに介護支援専門員を1名確保し、新体制となりました。それにより以前と比べ医療・介護の専門性を職員全員で共有できる環境となり、個々のマネジメント力の向上に努めることができました。

また、地域からの需要に対し安定したサービスを提供できました。26年度は淡路市在住の要支援1.2の方を地域包括支援センターが担当する方針となり、4月から6月までの間に19名の担当変更を余儀なくされました。

その後も変わらず、地域との関わりを大切に支援を継続することで、着実に件数を増やし、前年度とほぼ同じ状態まで回復できました。

月平均の給付件数

H25年度、約74件 → H26年度、約74件

施設入所や亡くなられた方が昨年度と同様に増えてきています。事業所への依頼経路としては、地域包括支援センターからの依頼が増えており、前年度に比べ信頼を得る事ができたと思います。また、以前担当をさせて頂いた方のご家族から、紹介を受ける事も増えおり、地域の介護相談窓口として機能していると感じております。

介護支援専門員の体制を整えつつ、認定調査受託件数を増やし業務の適正化を図りながら、北淡地域連絡会やケアチームほくだん（医療機関主催による各職種合同の連絡会）への出席など、地域や関係機関とも協力しながら事業を推進しました。

### 平成 27 年度への課題及び展望

独居高齢者、高齢者世帯など少子高齢化が進む淡路市の顕著な地域事情において、地域全体で見守りや支援体制を築くことがより強く求められている状況下です。これからも、各関係機関や地域住民とのつながりを重視しながら、利用者個々人が住み慣れた地域や環境で生活が継続できるような援助方法を模索、提供できるよう事業所として努めていきます。

地域のニーズに十分な対応が図れるよう、平成 27 年度は事業所 3 名体制を安定したものにし、前年度以上の業務の安定化と適正化、介護支援専門員個々の力量はもとより事業所としてのサービスの質の向上を図ります。

今年度も地域のニーズ応需、事業所運営の両面を実行していくため、地域実情の十分な把握、適切な目標の設定、中長期的な視点に立った事業運営を各方面に理解を得ながら進めていきます。

## ゆうらぎ訪問介護ステーション

### 平成 26 年度 事業所総括

高齢化が進む中、独居高齢者、高齢世帯として在宅で暮らしている方々が増えています。その方々の思いや悩みに寄り添いながら援助内容を考え、介護支援専門員や地域の方々、他の在宅サービスと連携しながら業務する 1 年となりました。

訪問介護員は常に一人で訪問しています。アクシデントが発生した時の対応方法、こんな時はどうしたらよいのかを咄嗟に判断しなければなりません。今年度は緊急時の対応知識を習得するべく勉強会や研修に参加してきました。

研修とは言え、知っている、経験していることで行動に移せることもあります。職員からは勉強会に参加して良かった、役に立った、再確認ができた、との声が上がっています。研修や勉強会はこれからも継続していきます。

### 平成 27 年度への課題及び展望

介護保険だけでは生活支援が難しくなり在宅生活を実現するためには、多様化したサービス提供が必要となっています。そのため自費サービスの実現に向け取り組んで参りましたが、保険外・保険利用も含め複雑化したサービスの適正な取り扱いについては、事業所を含め利用者にも十分な理解が必要となり、実施・実現には至りませんでした。

平成 27 年度は自費サービスの定着に向け、しっかりと足元を固めながら実施していきます。また、調理についても何度も教育訓練に参りましたが、一人分の調理がなかなかできず、これからも実習を重ねていきます。障害者支援にも取り組みたいと強く感じておりますが、事業実現には訪問介護員の増員は必要不可欠です。

## 養護老人ホーム北淡荘

### 平成 26 年度 事業所総括

平成 26 年度も前年と大きく変わる事なく養護の原点を顧み、北淡荘利用者の自立心向上を図り、安心、安全に生活が送れるように支援しました。

健康管理面や施設での生活面において自立心の向上が徐々にではありますが図れてきました。しかし、入所される方や待機者の中には、精神疾患・認知症・要介護認定者の割合が高くなり、施設での生活支援の負担も大きくなってきています。このような現状を改善し、自立した生活が送れるよう外部の訪問リハビリも取り入れ、残存機能の維持と向上を図りました。

また、認知症利用者の徘徊事故対策として徘徊者の見守り・早期発見を図るため、民生委員との交流会等を通じ、認知症への理解を地域の方々に広めることに努めました。

#### 平成 27 年度への課題及び展望

これからの養護老人ホームを取り巻く状況は、更に厳しくなると予想されます。地域との交流・地域社会への参加を積極的に行い、施設と地域が一体となり、地域に開かれた施設として、多くの方々の理解を得て、選ばれる施設づくり、福祉の拠点としての役割を果たしていきます。

また、精神疾患・認知症・要介護認定対象者の割合の増加に伴い、業務の効率化を行い、利用者に安心安全な生活を送っていただけるよう支援していきます。

### 小規模多機能型居宅介護事業所 ぬくもり

#### 平成 26 年度 事業所総括

平成 26 年度は個別ニーズの把握と理解に努め、ご利用者・ご家族とのコミュニケーションをしっかりと図ると同時にご利用者が安心・安全に過ごせる環境作りに力を注いできました。

また、ご利用者やご家族の信頼を得られるよう、ご利用者お一人お一人の多様な生活に対応した柔軟なサービス提供と ISO による継続的改善に努めました。

しかし、ご利用者の加齢に伴う重度化により、死亡、入院、長期施設移行が重なり、前年度の平均登録者稼働率 83.3%に対し、今年度の平均登録者稼働率は 80.0%、前年度比マイナス 3.3%と低下。収入も前年度を下回りました。

引き続き関係機関と密な連携を図り、サービスの質の向上に取り組むことで経営の安定化に努めます。

～地域との連携～

- 見学者・相談者・ボランティア（花壇作り・手芸・音楽）・研修生の随時受け入れ
- 消防訓練
- 運営推進会議（2ヶ月毎）の実施
- 地域や図書館の祭り、学校行事等への参加
- 日常的な買物・通院・理美容・散歩 等

地域との関係が深まることで居宅介護支援事業者や住民からの問合せも増え、地域福祉の拠点としての役割が図れました。

#### 平成 27 年度への課題及び展望

平成 27 年度もご利用者に満足いただけるよう「安心と安全」を最優先し、職員の人材育成と経営の安定化に努めます。

法令の視点からサービスの質の維持・継続を図り、地域住民、行政や関係機関、各事業者、インフォーマルサービスと連携協力し、地域の皆様の期待に応えられるよう身近で必要とされる事業を展開して参ります。

## 佐野デイサービスセンター

### 平成 26 年度 事業所総括

サービスの質向上を目指し、ご利用者お一人お一人に合わせた創作活動を取り入れました。  
レクリエーションや外出行事では、季節を感じていただける企画作りを大切にしました。  
昨年に引き続き、月に 1 度 ボランティアの方にお越しいただき、様々な楽しみやコミュニケーションの機会を設けたことは、ご利用者に大変喜んでいただきました。

地域に開放された施設づくりを目指し、いきいき 100 歳体操へ場所の提供・佐野小学校七夕まつりへの参加・佐野保育園児との交流を行いました。その成果か、佐野地区にお住いの方のご利用も増えて参りました。

「佐野デイ秋祭り」が台風のため中止になってしまったことは残念でした。

### 平成 27 年度への課題及び展望

平成 27 年 4 月 1 日から利用定員を 24 名から 27 名に拡大しました。

数字だけを追い求めるのではなく、  
大切なのはご利用者お一人おひとりを尊重する質の高い支援であるという考えを全職員が持てる研修・教育を積極的に行います。

地域の方々にも心待ちにしていだける行事となってきた「佐野デイ秋祭り」。  
その期待に応える中身が作れるよう職員の団結力を高めます。

「職員のレベルアップ」＝「高い稼働率」を目指します。

## 地域密着型特別養護老人ホーム ほほえみ

### 平成 26 年度 事業所総括

開設から 3 年目を迎え、下記 3 つを大きな目標として進めてきました。

- \*ご利用者、ご家族との信頼関係の向上とケア内容、対応力の強化と職員の健康管理
- \*適材適所の職員配置と CS、ES の向上
- \*適切なコスト分析による経費削減の継続的な実施

「ご利用者、ご家族との信頼関係の向上とケア内容、対応力の強化と職員の健康管理」に関しては、  
4 月度にほほえみ初の家族交流会を開催し、職員紹介、施設での取り組み、予定等を報告し、  
出席して頂いたご家族とも意見交換を行いました。

ご利用者に向けては、法人研修で教わった接遇、介護技術向上チームによる定期的なケア内容の確認と統一を図ること  
で精神的な安心と身体的負担軽減が図れるよう努めてきました。

「適材適所の職員配置と CS、ES の向上」に関しては、  
年 2 回以上の部署長による個人面談を実施し、個々の能力や人間性を確認すると共に、  
施設が個々に期待すること・施設の今後の方向性について等を伝える良い機会となりました。

また、職員の前向きな異動も行い、リーダーとして地位を確立した職員やフローア異動により能力を存分に発揮できる  
ようになった職員も出てきたという成功事例もありました。  
今後も職員教育の充実を図り力量を維持、向上させながら、積極的な体制作りと職員配置を進め、  
CS、ES 共により一層高めていきたいと思えます。

「適切なコスト分析による経費削減の継続的な実施」に関しては、  
日常的に使用する冷暖房や電気は勿論、物品や消耗品、公用車の使用方法なども含め、  
この 1 年間会議体等でも継続的な議題として意識的に取り組んできました。

冷暖房に関しては必要以外徹底して使用しない癖づけを行い、  
消耗品や物品の購入に関しては、金額の大小関わらず、類似商品での比較や取引業者に見積もりを依頼し、  
金額、品質を比較した上で都度購入していく等の方法を徹底してきました。

公用車に関してはエコドライブを基本とし、事故、修理等をゼロにする事を目標に置いていましたが、  
結果的には修理等が必要となったケースがありました。

来年度は、予算や稼働率等を適切に立案し、無理、無駄なく予定通り執行出来るよう努めていきます。

#### 平成 27 年度への課題及び展望

来年度に向けては、根本的な業務（勤務体制や記録方法、業務内容等）の見直しと効率化を積極的に行うことで生まれる時間を今まで以上にご利用者へのサービスとして目に見える形で還元していきます。

組織の体制作りに関しても、適切で前向きな職員配置を勧めると共に、  
ボトムアップで職員の力量の底上げと活性化を図っていきたくと思います。

また、地域貢献事業に関しては、現場職員レベルでも地域や関係機関と関わりを持ち、  
地域の研修、講習会、勉強会などへも積極的に参加を促し、  
事業展開の推進と千鳥会（ほほえみ）のブランド作りに貢献出来るよう努めていきます。

## 千鳥会デイサービスセンター ほほえみ

### 平成 26 年度 事業所総括

26 年度は定員 25 名からスタートし、年間を通して 1 日のご利用者数が平均 20 名を超え、  
新規のご利用も多くありました。

前年度を上回る実績を残す事ができ、8 月には定員を 30 名に変更しましたが、  
冬季のご利用人数の減少もあり、当初予算の目標値は達成できませんでした。

4 月より作業療法士が 1 名入職し、  
介護予防は運動器機能向上加算、  
介護は個別機能訓練加算Ⅱの算定を開始しました。

機能訓練については、ご利用者やご家族、居宅介護支援事業所への案内・説明を行うことで、  
こちらを希望し、ご利用くださる方も増えてきました。  
機能訓練を実施できる人数は限られていますが、作業療法士が送迎に同行し、自宅の状況を確認し、  
ご利用者が日常生活で困っていることに対して訓練を実施し、在宅生活の向上を目指し取り組んでいます。

26 年度のデイサービスの行事は、季節の行事に加え、  
4 月のほほえみ祭り、9 月の敬老会、12 月のクリスマス会、2 月の交流会と大きな行事を 4 回行いました。  
曜日の変更や追加で多くのご利用者に参加いただき、楽しんでいただくことができました。  
12 月のクリスマス会では恒例の児童養護施設との交流を予定していましたが、  
インフルエンザの影響によりプレゼント交換のみの実施となりました。  
来年度もご利用者の皆様に楽しんでいただける行事を企画していきます。

地域交流では、浦保育所・浦小学校・東浦中学校との交流を行うことができました。  
浦保育所・浦小学校とは歌や踊り、ご利用者との手遊びを行いました。

東浦中学校美術部のみなさんが、施設見学の後にほほえみをイメージした絵画を制作していただき、  
ご利用者と一緒に贈呈式を行い、カラオケでの交流も行いました。  
今後も地域交流の機会を作り、繋がりを大切にしていきます。

アクシデントは昨年よりも増加し、行政への事故報告書を提出した事故も 1 件発生しました。  
ご利用者が増えていく中、職員がご利用者ひとりひとりの状態をしっかりと把握し、

適切な介助、インシデントによる未然防止が重要だと感じます。  
職員間での連携を向上させ、ご利用者のリスクに関する情報を共有し、  
来年度は事故件数を減少できるよう取り組んでいきます。

職員教育に関しては、今年度は介護技術をテーマに部署内で勉強会を開催しました。  
介護の経験がない職員もおおり、ご利用者・職員、相互に無理のない安全な介護を実践できるよう取り組んでいます。  
職員との個別面談も年に4回実施し、業務や職員間の連携改善へと繋げています。

#### 平成 27 年度への課題及び展望

来年度は介護報酬の改定もあり、26年度の稼働率推移に基づいた適切な予算設定を行い、  
年間を通して目標値を達成できるよう取り組んでいきます。  
また、機能訓練を取り入れたレクリエーションや行事实施に取り組み、  
デイサービスでの機能訓練の充実を図ります。

職員研修では、外部研修への参加を積極的に行い、  
部署内で共有し、デイサービス全体のスキルアップへと繋げていきます。  
地域交流については、今年度以上の交流行事を開催し、関係機関とも更なる連携を深めます。

### 小規模多機能型居宅介護事業所 ほほえみ

#### 平成 26 年度 事業所総括

開設から3年が経過し、事業所として一定のサービスの質、安定した運営体制が図れてきました。  
平成26年度の上半期は、登録者の要介護度も増し、重度な利用者対応にも努めました。  
一時期は要介護3以上の利用者が3割超となり、事業所職員としてもより踏み込んだ介護技術の習得が必要となりました。  
重度化となりながらも、自宅に帰宅された際の訪問支援についても創意工夫しました。

利用者を介護する家族の深い気持ちを知り、その気持ちに寄り添った支援の必要性も強く感じました。  
下半期は登録利用者の施設入居が相次ぎ、不可避な理由（施設入居、逝去等）による登録終了者も8名あり、  
その都度、新規相談を受け入れるような状況が続きました。  
結果的には、登録利用者の月間での入れ違いはありますが、登録20名を維持できました。  
ただ、本来の小規模多機能の特色である馴染みある環境でご利用者とご家族が長く寄り添える支援を目指すことが望ましいと考えています。

利用形態も「泊り」中心の相談依頼が多いですが、  
「訪問」「通い」の利用から徐々に「泊り」を組み合わせていくことが本来のあり方です。  
地域のニーズや居宅介護支援事業所の「小規模多機能型」への位置づけによる部分も大きいですが、  
事業所として葛藤があります。  
法人理念の「福祉はいつでもすべての人のために」の下、  
今後も緊急依頼にも可能な限り柔軟に対応していきたいと考えています。

「泊り」中心の利用者も「通い」利用を組み合わせ、少しでも自宅での生活を増やすことが望ましいです。  
その提案ができるよう具体的な支援方法を持ち合わせることを求められています。  
事業所として更なるスキルアップを目指します。

利用者に対する取り組みとして、生活支援はもとより、馴染みの関係を活かした「今」だからできる支援にも力を入れてきました。  
離れて暮らす家族との再会や、岐路に立つ利用者と家族に特別な時間を持っていただけるよう企画や行事を実施しました。  
具体的にはメモリアルな遠方への外出支援や施設入居を迎える利用者への卒業式など、数多くの取り組みを重ねました。

利用者や家族の生き方や価値観を理解しながら、支援者として自分達の思いを持てる事業所作りが不可欠です。  
支援者自らの思いがあつてこそ、利用者や家族に今だからこそできる支援と一緒に考えることができると考えます。  
支援者としての立ち位置や役割を常に探り、葛藤しながら、利用者や家族と一緒に悩み、笑い合える事業所を目指して  
いきます。

## 平成 27 年度への課題及び展望

平成 27 年度は介護保険制度改正により報酬改定に加え、登録定員の増加、短期利用の受け入れも可能になるなど小規模多機能における運営も従来とは異なってきます。

事業所における介護や生活支援への取り組みをより充実させながら、同時に安定した事業所運営に努めていく必要があります。

「訪問体制強化加算」「総合マネジメント体制加算」といった大きな新設加算の算定もあります。

住み慣れた自宅や地域での暮らしを支援する小規模多機能本来の事業性を追求するためにも、その取り組みが算定結果につながるよう取り組みます。

上記取り組みを周知し、相談依頼で一人でも多くの地域の方を支援し、その結果が定員増につながればと考えます。

制度改正の下、利用者への生活支援はもとより、「地域」「小規模多機能」「ほほえみ」が関わることで付加価値を生み出せる事業所として、更なる質の向上を目指します。

## ほほえみ居宅介護支援事業所

### 平成 25 年度 事業所総括

開設 4 年目を迎え、4 月は要介護 32 件、要支援 6 件から始まりました。

昨年 4 月は 14 件でしたので、比較しても倍以上のご利用者の担当をさせていただくことができました。要支援については 7 月より一旦淡路市地域包括支援センターへお返しすることとなり、担当件数は無くなりましたが、要介護状態になった方を再び担当をさせていただくことが数件ありました。

平成 27 年 1 月には要介護の件数が 35 件となり、昨年ほどの伸びはありませんでしたが安定した 1 年となりました。

また、いきいき 100 歳体操に来られている地域の方々との交流も様々な形で広がった 1 年でした。

施設を開放し、約 2 年と 6 ヶ月が経ちましたが、少しずつご利用くださる地域の方が増えてきました。

毎月第 3 水曜日は、ほほえみ看護師による「健康チェック」と「健康相談」があり、いきいき 100 歳体操に来られる方々にもお受けいただいています。「相談にのってもらったり、定期的に健康状態をチェックしてもらえて安心」とのお声をいただいています。

体操前に身長（初めての利用の方のみ）と体重、血圧や脈拍を測定します。

測定の結果や看護師が気になったこと、ご利用者が気になっていることなど相談できる時間を設けています。

これからも住み慣れた地域で自分らしく生活していただけるようご支援していきます。

ほほえみ施設のご利用者支援として、1F 多目的スペースを利用した「ほほえみ喫茶」に加え、平成 26 年 7 月からは「ひまわり作業所」の「サンリッチ喫茶」にもご提供いただき、合わせて月 2 回の喫茶の日を設けています。

「ほほえみ喫茶」では毎回手作りのおやつをご提供し、お好きな飲み物と一緒に召し上がっていただいています。ほほえみ内の違うサービスをご利用されている方との交流の場にもなっています。

「サンリッチ喫茶」では豆から挽いたコーヒーの香ばしい香りにご利用者も「美味しいね」とニコリ嬉しそうに微笑まれます。

ご利用者をもっと深く知るため始めたサークル活動も今年度は 2 回行うことができました。

第 2 回 岩屋サークルでは、「懐かしい岩屋商店街を歩こう」と題して岩屋出身者や在住者のご利用者や商店街を歩き、商店街内にある「つながり拠点」でお茶を飲みながら、昔話に花を咲かせました。

もう 1 回は東浦サークルです。

ほほえみ内にある多目的スペースで東浦出身者や在住者のご利用者を中心に、

お茶を飲みながら昔の映像を観賞し、「観音さん入ったことあるよ」「今は淋しくなったな」とそれぞれ思いを語り合い、東浦音頭を踊ったりしました。

外部ボランティアによる「ふれあい交流会」を5月・8月・11月・2月に行いました。

- 5月・・・ウクレレとフラダンス（ご利用者も手を振り一緒に踊られました）
- 8月・・・創作詩舞道（ご利用者も一緒に踊りを楽しまれました）
- 11月・・・琉球音楽（音楽に聴き入り、太鼓や三線の音に胸躍らせていらっしゃいました）

どの交流会も「よかった」「おもしろかった」「良いもの見られた」等のお言葉をいただき、楽しいひと時を過ごしていただきました。

その他、保育所のみなさん・小学校3年生のみなさん・中学校吹奏学部のみなさんと交流しました。

中学校吹奏学部のみなさんは、4月のほほえみ祭でオープニングを飾ってくださり、迫力のある演奏に皆さん感動されていました。

保育所の園児たちは、敬老会で披露したダンスをほほえみでも踊ってくださり、その後は、肩たたきや手遊びでご利用者と交流しました。ご利用者は「可愛い」「こっちにおいで」ととても喜ばれていました。

小学3年生の皆さんもダンスを披露してくださり、最後にご利用者一人一人と握手をしました。ご利用者は生徒のみなさんに「がんばれよ」と声を掛けたり、涙ぐまれたりされていました。

生徒の皆さんからは「来て良かったです」「新しい手遊びを覚えることができ嬉しかったです」との言葉をいただきました。

#### 平成27年度への課題及び展望

地域のみなさまにとっての身近なケアマネージャーであるよう引き続き頑張ります。

ご利用者にボランティアによる催しをただ見ていただくだけでなく、サークル活動等、26年度とはまた違った内容を企画し、保育所の園児や小学生との交流も引き続き行い、ご利用者に楽しく過ごしていただける1年にしていきます。

また、いきいき100歳体操に参加くださる方との交流も続け、参加者の増加につなげます。

平成27年度より多目的スペースでの展示も担当することになりました。写真や絵画、イラスト、パッチワーク、保育園児や小中学生の作品展示を継続して行い、27年度は新たにほほえみご利用者の作品も展示します。地域のたくさんのみなさまに足をお運びいただけるような作品展示を目指します。

## ちびっこランド ちどり

### 平成 26 年度 事業所総括

平成 26 年 6 月 10 日にオープンし、一時預かり保育から始めました。

6 月は 1 名、7 月は 2 名の利用がありました。

9 月からは一般家庭からの申込みによる月極保育 2 名と、施設職員が土日・祝日を利用。一時保育では 4 名の園児を迎えることができ、地域への認知度も高まってきました。

10 月から 12 月までは毎月約 2 名の新規園児の利用があり、月極保育が 3 名、一時保育が 3 名と園児の数も増えてきました。

27 年 1 月からは月極保育が 1 名に減少しましたが、定期的な利用が増え、月平均 3 名の利用があります。

保育内容としては、保育時間の充実を図りました。

0 歳児・2 歳児・3 歳児・5 歳児と年齢の違う園児と一緒に楽しく安全に過ごせる保育目標を立て、保育指針と保護者の要望をもとに「年間計画」「月計画」「日々の保育内容」を表した週計画を作成。一人一人の個性と発達過程に沿ったより良い保育内容に取り組みました。

異年齢の子どもたちが遊びを通じて関わりを持ち、年上の子は年下の子を助け、思いやりや守る気持ちが生まれています。仲間同士の助け合いや励まし合い、協力し合う光景もよく見られます。これが現在のちびっこランドちどりの特徴です。

月行事として、9 月と 10 月は地域密着型特別養護老人ホームほほえみの催しに参加しました。

9 月は敬老会、10 月は運動会、世代を超えて一緒に楽しむことができました。

10 月は野外保育として芋ほりを体験したり、夢舞台にお弁当を持って遠足に行くなど、広々とした野外でおもいきり遊びながら集団行動の大切さを学びました。

寒い季節は感染症を心配しましたが、勉強会や地域情報の共有、健康管理の強化等の予防に努めた結果、罹患患者を出すことなく現在に至っています。

### 平成 27 年度への課題及び展望

平成 27 年度は、どの年齢の子供たちも楽しく過ごし、思いっきり遊べるような保育内容の充実に加え、無事故で安心して過ごせる環境と、地域や保護者のニーズに対応できる保育の質の向上、また受入拡大等を目標に、きめ細やかな保育に取り組んでいきます。

そして、地域との連携を図り、交流の場には積極的に参加し、つながりを深めて行きます。